

令和6年度

第二回指導者講習研修会

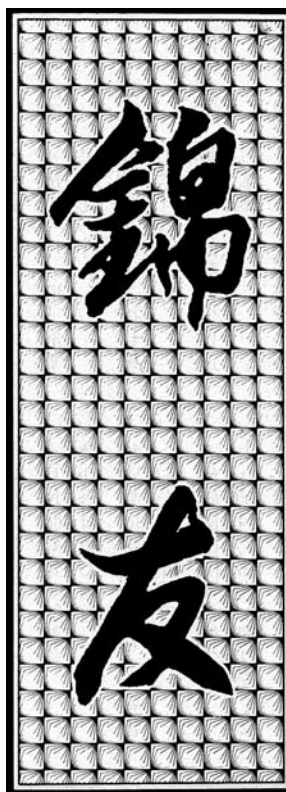
日時：令和7年3月6日（木）～7日（金）

会場：ニューウェルシティ湯河原（静岡県熱海市）

まず、一日目は、土田城紘（師範（滋賀））の開会の辞に続いて57名の師範（総教師師範の皆さんの吟と12題の合吟が披露されました。

二日目は、37名の大師範（総師範、及び3名の宗範の吟の披露と6題の合吟の披露がありました。その後、宗家・山元錦城先生から講評を頂き、金子錦右大師範（佐賀）の閉会の辞で吟の発表を終わりました。

昼食を挟んで、午後からは、3人の宗範のお話がありました。



一吟徹心霊
一曲能興国

錦友…第321号

〈令和7年4月25日〉

・編集・
一般社団法人詩吟朗詠錦城会
・発行・
一般社団法人詩吟朗詠錦城会
東京都港区麻布十番2-4-14
電話：東京03-5484-3301（代）
〒106-0045

まずは、事務連絡ということ
で、事務局長の金子城大先生から、今回のプログラム編成の趣旨説明がありました。

今回は、初めてプログラムに合吟を取り入れてプログラムを組みました。合吟をすることによって、吟者の気持ちをひとつにして、一生懸命にやろうという気持ちになってもらおうとの趣旨で実行しました。その効果が出ていたと思います。

とても難しい事とは思いますが、各都道府県本部でも、会があつた時は、是非合吟を取り入れて頂いて、集中した形で合吟に取り組んで頂けたらいいかなと思います。

今回、講師を探しましたが、時間的問題もあり、難しく、宗範は65年も詩吟をやっているのだから、何か良い話があるんじゃないかということになり、我々3人の宗範がお話をするこ
とになりました。



本村先生・城戸先生・金子先生

金子城大先生のお話

65年前、私が高校一年生の時、学校の柔道場に集められ、流祖・山元錦城先生の紹介がありました。私は、詩吟を知りませんでした。私は、流祖の素晴らしい声が全身に響いて、もう一度聞かせて欲しいと本部を訪ねて、聞かせて頂きました。その後、色々な会で山元先生のお名前があると、押しかけて行って吟を聞かせて頂きました。

詩吟朗詠錦城流は、他流が使っていない独特な節調を使っています。錦城流にしかない節調です。まず最初に、「四」の出があります。初めて歌う方

は非常に難しくなります。しかし、それに慣れてしまえば、何という事はないですね。「四の出」というのは他流には全くありません。だから、他流の先生方にすると、調子はずれたと取られてしまいます。だから、コンクールに出られる方は、「四」を使ったものは、選ばないことが良いです。

二番目は、絶句の転句の所の「七」。他流は、「ゆきは」と引きませんが、錦城流は「七」を引きます。これは、錦城流の良さです。

三番目は、結句の「さかしまにかかる」の後の「三 五 六七 六」という節調は、他の流派にはありません。非常に個性的な譜です。

最後は、「巻き落とし」です。これを使っている流派はありません。ですから、錦城流の小節の良さを生かして、これら四つの良さを生かして欲しいと思います。最近、他流が非常に似てきていると思います。「マネするなよ!」と言いたい。

私は、日本伝統文化吟友会のコンクールに出場したいという皆様の応援しています。「のび」とした声が出ること、「良い吟者を育てたい」この一念で指導しております。

(次頁へ続く)

現在、私が指導していて困っていることがあります。

◎生徒が、80才以上になり、足腰が弱って、稽古場まで来るのが大変になっている。これについて、ご自身で頑張っていました。

◎稽古で、急に調子が低くなってしまうことがあります。現在、コンダクターに頼っているからうまく歌えないのかなと思ってコンダクターを使わない指導も試みています。

◎年齢と共に耳が遠くなってしまう人がいます。やむを得ないことですが、補聴器を使って稽古をしているが、突然耳が聞こえなくなるのは、突発性難聴なので、一刻も早く耳鼻科・耳鼻咽喉科へ行ってください。早ければ早いほど回復するそうです。

皆様も指導されていて同じような悩みを持たれているのではないかと思います。参考になればとお話させていただきます。



会場の様子

城戸城濤宗範のお話

金子先生が入門してきた時、良い意味でライバルになってくれそうだな、良い友達が出来たなと思いました。

私の場合、母が最初に初代宗家にほれ込んで、父は、母がそちらにのめりこんで、私たちの面倒をちつとも見ないと少々険悪な時もありました。

子供の頃、レコードで初代の吟を聞いたことがあって、てつきり男性だと思っていました。実際に流祖のお目にかかること、男性だと思っていた方が女性でした。詩吟にのめりこんでいた母に対して不満のあった父が、流祖にお目にかかって、すっかり気に入って、自身も入会し両親揃って会員になりました。

私が大学に行くことになった頃、姉の結婚式に流祖がおいで下さり「忘るるなかれ 此の日の時の情（結婚式 寺岡鏡谷）と一吟して下さい、それを聞いたら、自分が結婚したかのように痺れてしまい、その時初めて肉声をお聞きして、大学で東京に出て何をしようかと思った時に詩吟を始めたのです。

金子さんもおられ、本村先生も鹿児島から出てこられて内弟子になられ、この三人が、言わば幼馴染みでした。その頃は、錦城流が全国にパツと広

がっている時代でした。流祖もこの三人を離さないわけですよ。どこでも連れて行きました。流祖は、琵琶の仲間を頼って「今度そちらに行くから人を集めて頂戴」と言いながら錦城流を広めていきました。そのお供をして舞台に出させて頂いたので、大変勉強になりました。

その頃、琵琶を始めました。琵琶は、練習がハードというかわ大変な世界です。実は、本村先生も金子先生もやりました。琵琶吟というものを創作されたのが初代で、吟詠と琵琶と詩舞の融合。詩舞は、本村先生に「あなたやりなさい」ということで、東京にいる間に勉強なさって、

本村錦香宗範のお話

何故か三人で縁があつて半世紀以上頑張ってきました。私が二十何歳かの時、流祖から「本村さん、あなたは結婚しないの良いのよ」と言われたことがありました。地元・鹿児島から、「宗家、本村先生のお相手を何とかしてください。」という話があったとき、流祖は「この人は結婚しなくていいのよ」。

その時27歳でしたから、この素晴らしい吟詠、素晴らしい先生のお気持ちに沿おうと、自分の道を選ばせて頂いて今日がこざいます。私は、この道が天か

鹿児島に帰られてから自分の詩舞というものを作り上げて今の錦城流の詩舞があります。

私は、途中で水戸に帰り家業を継ぐことになり、30代の頃は、詩吟は留守になつてしまつて、時々お呼びいただと吟詠に参加させて頂くという状態でした。

：中 略：

教えるという事は大変です。疲れるわけです。ところが、教え始めるとなんだか知らないけれど、元気がでるわけです。教えるという事は、逆にエネルギーを頂くという事だと思えます。指導するという事に皆様方は大いに力を発揮して欲しいと思います。

らもらった道だと思えます。
……

この後、本村先生の流祖に対する熱い思い、当時の全国各地の様子、地元鹿児島、西郷先生への思い、一つ一つの吟に対する思い等熱く語っていただきましたが、未熟な編集で、皆様に分かり易くお伝えするようにまとめきれませんでした。

ただ、本村先生の流祖、錦城流、一つ一つの吟に対する思いは、参加された皆さまにはしっかりと伝わったことと思います。

(S)

新入会員の紹介

(12/16・3/27)

大野城道場 原田 徹 森 二

三夫

串木野支部 野元寛代

大田支部 福井明子 鈴木咲良

安土支部 辻 美穂

鹿児島支部 木場紋次

大津支部 森村恵子

日立支部 寺門幸子 萩谷良子

橋本よし子

三日月道場 森永正子 平野恵子

夜市道場 藤原順子

佐々支部 吉永正昭

横浜西部支部 木村幹雄

志布志道場 里園佐保子

長崎支部 松田聖子

水戸支部 桑原由美

佐久道場 末次一治郎

本部の動き (6.12.9より7.2.20まで)

12月9日 神奈川県本部の講習研究会

1月25日 福島県本部の講習研究会

2月5日 東京都・神奈川県・埼玉県本部の昇格審査

15日 東京都本部の講習研究会

日本伝統文化吟友会 全国大会出場者の件

日本伝統文化吟友会令和6年度・吟剣詩舞コンクールに出場された次の4名の方のお名前が前号の錦友に記載漏れがありました。お詫びして、改めてご紹介いたします。

詩舞・一般三部

山田美知子（大阪）

竿尾久美子（大阪）

審査員特別賞

藤田明美（大阪）

今村匡子（大阪）

日中産業友好歓迎会

昨年11月25日、大藝産業（株）主催、日中産業友好歓迎会（百五十名来場）の司会・進行の任務を頂きました。来賓は、中国政府No.3の全人大・呂天寶代表、そして、天皇陛下の学習院初等科からの御学友筆頭ブレインで

開催にふさわしい始まりにしたいと思い、詩舞道錦城流総師

詩舞道錦城流

第三十五回広島支部温習会開催

晩秋に入った令和6年11月27日、午後1時30分より、世羅郡世羅町「せらにしタウンセンター」つばきホールで、詩舞道錦城流第35回広島支部温習会が開催されました。参加した会員は16名で、その中、世良支部の詩吟の会員1名も参加され吟じて頂きました。

少人数の会となりましたが、



範・西川緑恵先生にご相談申し上げ、「松竹梅」をご披露頂けることを快諾して頂きました。（私も吟じさせて頂く）

西川緑恵先生の「雅」な舞に呂天寶代表、乃万暢敏様もとても喜んで下さり、日中両国の共有できる伝統文化を御披露させて頂く幸せを感じました。

（広島南支部 山田錦利）



伝位ごとの独舞・群舞の部と、ひとり2題の演舞を披露しました。伝位も奥伝から秀師範迄で、全国大会で入賞された方もおら

初吟会における新春かるた大会について

神奈川県本部は、令和7年1月26日（日）に恒例の初吟会を開催致しました。

これまでと趣を変え、プログラムの第2部として「新春かるた大会」を企画し、通常の吟詠終了後、手作りで制作した詩吟

れます。西川緑恵先生の熱心なご指導のもと、会員の皆様へ熱意が伝わった会となりました。

群舞では、「青山歌」「秋日偶成」等を吟者の吟で舞いました。また、レコードによる和歌入りの「九段桜」「落花」もあり、日頃の練習の成果もあり、メリハリの効いた舞台となりました。また、総師範の部で「安宅」を西川緑恵先生と秀師範の方で舞われた詩舞は、迫力があり物語りに引き込まれ、とても感動しました。

最後になりましたが、世羅町の地で舞台のチャンスを与えてくださった西川緑恵先生に感謝申し上げます。世羅町は、広島市からも福山市からも遠方の地ですが、皆様参加して下さいましてありがとうございます。これを機に更なる詩舞の飛躍を願っております。

（世良支部 小西緑厚）

◆新師範の紹介◆

雅号 県名

取得年月

河原錦薛（山口県）

6・12

近藤錦和（福岡県）

7・1



③歌い手が上の句（起承の句）を朗詠し、上の句（起承の句）を取るゲーム、④読み手が詩の情景と作者の心情を読み上げ、上の句（起承の句）を取るゲーム、それぞれ5ゲーム、合計20ゲームを作者名、題名を明かさずに行いました。結果は、この企画を練った常務理事会の予想をはるかに超えて、12枚1名、8枚1名、5枚1名、4枚6名と好成績を収めました。ベテラン吟詠者の漢詩の理解力と記憶力を甘く見すぎたと反省し、次回はかなりハードルを上げてゲームを行う予定です。かるた大会には見学者を含め30名ほどご参加頂き、面白おかしく1時間半のひと時を楽しみました。各県本部のご参考になれば幸いです。

（専務理事 伊東城峯）

佐久道場の初吟会を開催

令和4年4月に発足した佐久道場は、早くも3年目の令和7年を迎えました。1月18日(土)には、道場の稽古場を発表の場として活用し、第2回目の初吟会を開催いたしました。新年を迎え、道場長・木内藤人氏をはじめ、9名の会員の皆様は心を込めて吟を披露してくださいました。その中でも昨年新たに会員となった93歳の木内キミ江様の吟は、気魄あふれる素晴らしいもので、会場に深い感動を与えてくださいました。



その後の懇親会では、地元「大鷲」さんのちゃんこ鍋を囲んでアットホームで和やかな時間を過ごしました。皆さんと親睦が深まる貴重な時間となり更なる

絆が深まったと感じております。

現在、佐久道場は14名の会員を有しており、今年には20名への増員を目指し、さらには支部昇格を目標に、皆様と一緒にさらに精進して参ります。

長野県は豊かな自然と四季折々の美しい風景が広がる素晴らしい地域です。道場のある佐久市伴野という地域周囲には雄大な山々や清らかな川が流れ、心安らぐ環境が整っています。この自然の恵みを感じながら吟詠の活動を通じて、さらに成長できることを心より願っております。

(佐久道場 金子錦佑)

◆催事のご案内◆

(令和7年4月～8年3月)
◆本会主催 ◆本会後援

◇大野城道場発足一周年記念大会

・5月11日(日)
・福岡県春日市クロアパンプラザ

◆第一回指導者講習研修会

・6月23日(月)～24日(火)
・滋賀県琵琶湖グランドホテル

◆吟道の碑前祭

・11月30日(日)
・沼津市大瀬崎

滋賀県湖東地区 令和7年初吟会を開催

今年も、彦根市の彦根商工会議所に於いて、湖東地区令和7年初吟会に、百余名の参加をいただき、1月26日に開催しました。

林錦枝彦根支部長のご挨拶の中に「湖東地区の歴史を知らない参加者もおられますが、彦根支部の歴史は古く、発足して今年68年を

を迎えます。今は亡き山本城嶽先生の吟風を吹き込み、当時の諸先生方のご活躍により、足を伸ばして自力で長浜や野洲、遠くは大津や三重県津など、熱心に広めて頂いたお陰で、今日があります。湖東地区の皆さんに感謝

を忘れず維持していただきたい」とありました。

吟詠は「富士山」の大合吟に始まり、プログラムは、58題にわたり吟じられ、一吟、一吟の心地よい緊張と気迫で会場が響きました。

初吟会の終わりにあたり、会員相互の絆と今年は巳年ですので、一皮剥けた深みのある詩吟を目指して精進いただくことを願って閉会となりました。

(彦根支部 西山城与)



編集担当からのお願い

錦友の編集にあたりましては、ご協力頂きましてありがとうございます。原稿の多くは、パソコンで打ったものですが、それをわざわざ

印刷して送って下さいます。また、錦友は、縦書きですが、横書きで打って下さる方もいらっしゃいます。これらの原稿をメールで送って頂ければ、簡単に変更することができます。また、打ちそこないも減らすことができます。もし出来る事でしたら、原稿を錦城会本部のメールアドレスにお送りいただけると助かります。もちろん、手書きの原稿も大歓迎です。

編集後記

同じ場所ですごく長く生きて行くと思うたら、「最高の二番手」になるべきだ。 堺正章

仕事は「ゆるやかに下り坂」になる時期が誰にもある。不安でも、己を知る良い機会だと歌手・俳優は言う。彼が取ったのは「二番手」というポジション。トップを競わなければ、「ガツガツ」した焦燥感から解放されるし、自分がまだ通過点にいると思ひ努力し続けられる。誰もが一位をめざす社会より、一級品の二番手が多い社会の方が堅牢だ。『最高の二番手』から。4月4日の朝日新聞「折々のことば」より・・・ 編集後記に代えて皆様にご紹介します。(S)